



「スクール・フォー・アフリカ」ブルキナファソ 2023年活動報告

「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム スクール・フォー・アフリカ」を通じた皆さまからのあたたかいご寄付をもとに、ブルキナファソの子どもたちのための教育支援を開始して10年が経ちました。子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、ユニセフの活動を支えてくださり、心より御礼申し上げます。

ブルキナファソでは、隣国ニジェール、マリと国境を接している地域で、武装勢力の活動により治安が安定しない状況が続いており、200万人を超える国内避難民が発生し、その半数は15歳未満の子どもと女性です。2023年12月時点で国内の学校の20%にあたる5,330校が休校しており、約82万人の子どもたちが勉強を続けることができなくなりました。ユニセフは2023年、ブルキナファソの中でも特に困難な状況にある5つの地方で、避難民を受け入れている学校に「子どもにやさしい学校」モデルを導入することで教育の質を改善するとともに、様々な理由で学校に通っていない子どもたちが教育を受けられるよう、支援を進めました。

	2010年	2016年	2023年
幼稚園の就園率	2.8%	2.9%	6.6%
小学校の就学率	74.8%	86.1%	74.4%
小学校の修了率	45.8%	57.9%	54.6%

※治安の悪化による学校の休校などの影響により、一部地域で子どもたちの就学状況が遅れています。

1 学習環境を整える



清潔で安心できる環境の中で、質の高い教育を受け修了できるよう、ユニセフが開発し推進してきた「子どもにやさしい学校」モデルの導入と、治安の悪化が著しい地方で子どもたちが安全に安心して学べる学習環境が確保できるよう、緊急時を想定した校内訓練の実施や心理社会的ケアの提供などを含む「セーフスクール(安全な学校)」プログラムの実施を進めています。



小学校2年生の子どもたち

- 「子どもにやさしい学校」モデルの導入校の拡大と、「セーフスクール」プログラムのさらなる展開を目的に、児童17万1,463人が通う小学校355校の**教員1,415人**に研修を実施しました。教員は、武装勢力の襲撃で不安定な状況におかれる子どもたちへのケアに必要となる、心理的ストレスの軽減方法や平和教育などに関する知識を取得することもできました。
- 質の高い教育を実現するため、教育カリキュラム改革の一環として、幼稚園と小学校で使用する**教材10種**を新たに作成しました。また、公用語のフランス語、算数等の小学校の教科書**2,000部**、子ども用の机と椅子**1,500台**、教員用の机と椅子**100セット**、黒板**100枚**、学習用教材キット**7,546個**を提供しました。



日本の皆さまからのご協力で教育支援を実施している地域



2 学校に通っていない子どもに教育を届ける

治安の悪化や社会的・経済的理由で学校に通っていない9~18歳の子どもと若者たちのために、代替教育を届けています。

- 学校に通っていない子どもたちが基礎的な学習スキルを身につけ、学力に適した学年で就学できるよう、また、中退した子どもたちが再度、教育の機会を持てるよう、勉強の遅れを取り戻すための補習教育プログラムを実施しています。6月中旬から始まる夏休みに、**小学校60校**で補習授業を実施し、参加した**子ども15,823人**にリュックサック、ノート、鉛筆などの学用品を配布しました。また、WFP(国連世界食糧計画)と連携して、給食も提供しました。その結果プログラム修了後は、治安悪化の影響を受けた子どもたちを除く**2,243人の子どもたち**が、新学期に学校に戻ることができました。
- 国内避難民が集中する地域では、短期集中型の授業を実施するために新たに**30カ所**に学習センターを開設。これまでに学校に通ったことがない9~12歳の**子ども900人**が、次年度の就学を目指して学べるようになりました。一方、緊急事態下における授業の進め方について**教員302人**に研修を行いました。
- 学校に通っていない**若者2,483人**を対象に、職業訓練を実施しました。訓練コースは、理髪、配管工事、携帯電話の修理、タイル張り、縫製、食品加工、畜産、電気等、多岐にわたり、理論と実技の両方を学ぶことができます。



補習授業の様子

3 子どもを取り巻く人々の意識を変える



子どもたちが教育を受けられるようにするためには、教育の重要性を理解する保護者や地域住民の存在が不可欠です。ユニセフは教育省やパートナー団体とともに、子どもたちが教育の機会から取り残されないよう、学校の新年度が始まる前の9月に「学校へ戻ろう」キャンペーンを行っています。このキャンペーンは、地元のラジオや、携帯電話のショートメッセージ機能を使って情報を集めたり伝えたりできるアプリ「U-Report」を通じて、子どもの権利、教育の重要性、子どもの学習に影響を与える社会的規範を地域住民に伝える啓発活動です。またキャンペーンの一環として、子どもたちが小学校での学習を継続できるよう、**学習教材キット15,000個**を配布しました。



学習教材キットを届けるユニセフ職員

今後予定されている支援

国内避難民や障がいのある子どもを含む3~17歳の子どもたちが、男女の分け隔てなく教育を受けられるよう、ユニセフは支援を続けていきます。現在進めている、「子どもにやさしい学校」モデルと

「セーフスクール(安全な学校)」プログラムの導入校を増やし、教育の質と学習環境の改善に努めます。また、教員を対象に、中退した子どもたちが勉強の遅れを取り戻し学校に戻れるよう、午前と午後の二部制で補習授業を行うための研修や、ジェンダー*に配慮した誰もが受け入れられる教育法の研修を実施予定です。「学校へ

戻ろう」キャンペーンの大規模実施や、学校に通っていない子どもたちのための補習授業を継続し、小学校の就学・修了率の向上を目指す一方で、教育の基礎となる、小学校に通い始めるまでの就学前教育にも力を入れていきます。着実にアフリカの子どもたちの教育状況を改善するためには、皆さまからの継続的な支援が必要です。引き続きのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

※ジェンダー：何が女性的で、何が男性的かを表す、社会的・文化的に構築された概念

